

子どもたちが誇れる春日部市に

春日部市議会議員（次世代 かすかべ!）

吉田  
みのるの

MY 通信

Minoru Yoshida

第12号



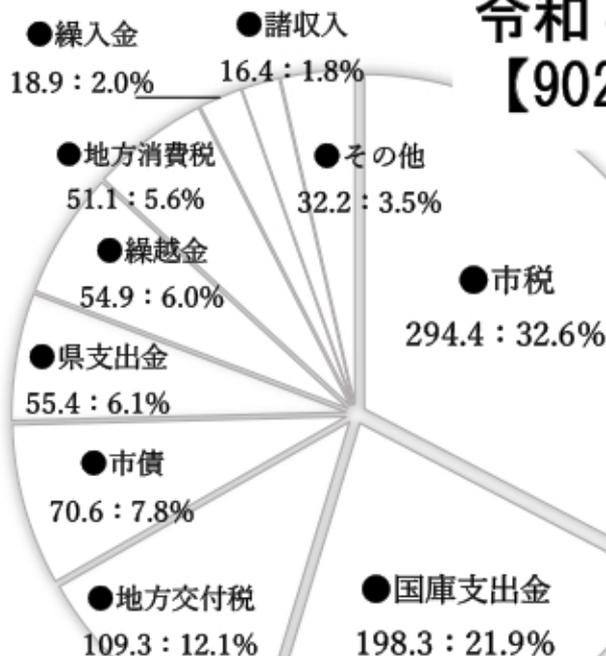
## 9月議会 特集号

副議長に就任し、5カ月が経ちました。副議長として様々な会に出席し、先進事例を学ぶため視察にも行きました。そこで感じたのは「今までと違う目線」で物事を考えている自分がいたということ。副議長という立場が私を変えてくれたと感じています。

思いがみのる  
願いもみのる  
必ずみのる  
吉田 みのる

## 2期目の主な役職

- ◇春日部市議会 副議長
- ◆厚生福祉委員会 委員
- ◇次世代 かすかべ! 副幹事長
- ◆春日部市「庄和大風文化保存会」顧問
- ◇西宝珠花区 理事
- ◆防災士



## 令和4年度の決算は

【902億円】(11/25修正済)

市税：春日部市に納める税金  
 国庫支出金：国が地方に支出する補助金等  
 地方交付税：全国の市町村が等しく運営できるようにする交付金  
 市債：国や銀行等からの借入金  
 県支出金：県が市に対して支出する補助金等  
 繰越金：来年度に繰越すお金  
 地方消費税交付金：県が徴収した地方消費税の1/2に相当する額を、市町村に交付  
 繰入金：基金から取り崩したお金  
 諸収入：延滞金・預金利子・貸付金元利収入・雑入など  
 その他：使用料や手数料、法人事業税交付金など

# 類似団体(産業や働く人の割合が同じ市)と比較

県内で同じ類似団体(※施工時特例市)は、「草加市」「所沢市」「熊谷市」の3つ

今回は、春日部市と草加市をチェックします！

比較項目	春日部市	草加市	草加市との比較と説明
人口	231,293人	250,977人	19,684人少ない
歳入総額	900.2億円	1,024.7億円	△124.5億円：少ないが、大体同じ予算規模
地方税の額	294.5億円	386.8億円	△92.3億円：皆さんの税金です。割合で、5%程(約45億円)少ない
地方交付税の額	109.3億円	41.5億円	+67.8億円：国からのお金、先行き不安定な額
職員数(一般)	1,021人	1,163人	△142人：ほぼ同じ割合
扶助費	235.3億円	215.6億円	+19.7億円：生活困窮者・障がい者等が多い為
地方債現在高	671.4億円	706.6億円	△35.2億円：借金の額、ほぼ同じ割合
財政調整基金	51.7億円	74.1億円	△22.4億円：自由に使える貯金の額が少ない
財政力指数	0.726	0.90	△0.174：大きい数値ほど、安定した財源がある
債務負担行為額	301.8億円	145.0億円	+156.8億円：来年以降の借金の額が多い
経常収支比率	95.7%	96.3%	△0.6%：100に近い程、自由に使えるお金が少ない
市民税徴収率	97.3%	98.2%	△0.9%：0.9%アップで、税収が約8億円アップ

吉田の総括！



人口差に対して、比較数値が大体同じ割合ですが、高齢者の割合が多いため、これから扶助費の増加が心配です。また地方交付税と借金額が多いので、国に頼るのではなく、自由に使える財源確保のために、春日部市で税収を上げる取組が早急に必要です。

※施工時特例市とは、人口20万人以上の市に一定の権限(市独自で市街化区域や市街化調整区域内の開発行為の許可などを行うこと)を県に変わって任せるための制度

## ◆9月議会補正予算の主な内訳 (一部抜粋)

- 特定教育・保育施設等運営費補助金 約1,4億円  
新型コロナ対策、保育所等のICTか推進事業、新卒保育士の奨学金返済の支援
- 貸切観光バス事業者特別支援事業 1,760万円  
市内観光バス事業者に対する支援金の支給  
大型バス：50万円、中型バス：40万円、小型バス：30万円
- 住宅リフォーム助成事業 約1,000万円  
住宅リフォーム工事を行う市民に対し、10万円(限度額)まで費用を助成

9月議会で取組んだ一般質問について（一部抜粋）

## 道の駅「庄和」

### 新たなステージ

#### に向けて

○道の駅「庄和」は、平成17年にオープンし今年で19年目を迎え、日々多くの来場者で賑わいを見せて、今では春日部市のランドマークとなり、賑わいの創出や地域の発展を支えている大きな施設になります。そこで、どのような経緯で道の駅「庄和」を設置することになったのか伺う。



始。広域交通の要衝としての位置付けが高いことから庄和インターを

中心に新たな土地利用の展開が期待され地域活性化の拠点施設とするため、庄和インター近接地に道の駅を整備することとした。その後、国土交通省と連携を図り整備を進め、平成17年3月27日にオープンした。

○道の駅「庄和」は非常に人気があり、近隣どころか都内の方も来店し、美味しい地産産物の米や野菜を購入していきます。そこで、過去5年間の売上と来館者数の推移を伺う。

↓施設全体の売上額は、過去5年間10億円前後で安定している。来館者数の過去5年間の推移は、年間1万5千人の減少を続けている。平成21年度の約76万人をピークに、平成22年度以降、年々減少傾向にあり、現在のところ50万人前後となっている。来館者数が減少傾向の中で令和2年度の売上は開業以来、最高額となっている。

○ひとまずは道の駅「庄和」の経営状況についてある程度把握で

きました。が、経営状況が良いのか悪いのかは分からない。他の道の駅と比較して経営状況はどうなっているのか伺う。

↓全国道の駅連絡会の経営実態調査（令和4年度）によると売上額の全国平均は約2億4千万円。他自治体と比較しても、非常に良好な経営状態であると考えられている。最終的な収支額は、年間約100万円から300万円で推移し黒字経営となっている。いくつかの近隣自治体に、道の駅の指定管理者の収支を確認したところ、指定管理料を受けずに収支が数百万円の黒字となっているところは無し。近隣の道の駅と比較しても、道の駅「庄和」の指定管理者の経営状況は良好と考



飲食店の入っている食彩館

える。

○将来的な明るい兆しもある中で、何もしなければ来館者数など、このまま尻すぼみになることは当然の状況。そこで、道の駅「庄和」の現状の課題について伺う。

↓来館者数が年々減少傾向にあり、県内他自治体（桶川市・さいたま市等）で新たな道の駅の整備・検討が進められている。新設の道の駅に対抗できる競争力を高めていく必要がある。オープンから18年が経過し、施設・設備の老朽化が進んでいる。





クレヨンしんちゃんが  
お出迎え！

○時代の流れと共に少しずつ道の駅の役割も変わってきているが、これからの道の駅にどのようなものが求められているか伺う。↓国交省で『道の駅』第3ステージの取組を推進している。第1ステージ（2008年）は「通過する道路利用者のサービス提供の場」。第2ステージ（2013年）は「道の駅自体が目的地」。第3ステージ（2020年）は「地方創生・観光を加速する拠点」。そして現在の「第3ステージ」は3つの姿を目指している。①道の駅を世界ブランドへ②新「防災道の駅」が全国の安心拠点に③あらゆる世代が活躍する舞台となる地

域センターに。これからの道の駅は、観光や防災など、更なる地方創生に向けた取組や新たな魅力を持つ地域づくりに貢献できるような取組を展開しながら、地域の拠点として力を高めていくことが求められている。○道の駅第3ステージの「防災道の駅」を目指して指定管理者の庄和商工会として他の道の駅を見学に行くなど、知見を深めています。そこで、改めて「防災道の駅」の具体的な取組について伺う。

↓防災道の駅は、「第3ステージの取組」として新たに導入したもの。地域防災計画等で広域的な防災拠点に位置付けられている道の駅を「防災道の駅」として選定。大規模災害時等の広域的な復旧・復興活動拠点とするもの。（現在、全国に約1,200駅ある道の駅の内、駅が選定）。災害時に求められる施設・体制が整備されている。無停電化、通信や水の確保等。埼玉県内ではまだ選定されていない。



美味しい農産物がたくさん！

○今までの道の駅の客層とは違う、新たな客層の掘り起こしや変化に対応できるように検討するため、様々なビジョンを持って取り組んでいる指定管理者の庄和商工会ですが市として今後道の駅「庄和」に期待することを伺う。

理者と連携を図り、民間のノウハウ等を積極的に活用しながら、しっかりと流れに乗っていききたい。指定管理者と一緒に全国のモデルとなっているような取組の現場を確認しながら、前向きに活動している指定管理者をしっかりとパツクアップしていきたい。

【要望】道の駅「庄和」が「新しいステージ」に向けて取り組んでいくために、商工会のような「利益を求めめるのではなく事業や地域の発展のために取り組んでいる指定管理者」等に対しての緊急時の修繕等に迅速に対応のできる予算の計上と、第3次総合振興計画への対応を強く要望します。

↑魅力ある道の駅として価値を高めていくこと、本市の観光資源として、今後益々重要な拠点になっていくことを期待している。県外からも観光客が多く訪れるような観光スポットとなることを目指していきたい。防災道の駅について、関係部署や国交省とも調整しながら、指定管

はHPを  
詳しくご  
さい  
動画を  
一覧で  
市の動  
覧



発行

吉田みのる後援会  
春日部市西宝珠花 52  
048-748-1060  
090-7635-2459  
2023年12月発行